

第3回公立大学法人山形県立保健医療大学 経営審議会 議事録

- ・ 日 時 令和6年9月9日(月) 13:00 ~ 13:40
- ・ 場 所 (オンライン)
- ・ 出席者 上月議長(学長)、熊谷委員(理事)、遠藤委員(理事)
佐藤委員(理事)、内藤委員(理事)、武井委員(理事)、
林委員、伊勢委員
- ・ 事務局 原田事務局次長、庄司総務課長、漆山教務学生課長、
工藤総務企画主査、佐藤主査(総務課)
- ・ 欠席者 -

1 開 会

2 議事録署名人の指名

審議会議長である上月議長が、議事録署名人として遠藤委員並びに佐藤委員を指名した。

3 審議事項

資料1により、第2回 経営審議会の議事録が確認された。

4 審議事項

(1) 令和6年度補正予算(第1号)について

- ・ 総務課 佐藤主査から、資料2により、令和6年度補正予算について説明がなされ、異議なく承認された。

(2) 事務職員の採用について

- ・ 原田事務局次長から、本学事務職員2名(大学卒業程度1名、社会人経験者1名)の令和7年度採用について説明がなされた。
- ・ 説明後、委員から下記質問があった。

〈委員からの質問〉

[林委員]

Q. 社会人枠で採用される方は、どのような職位に配置になるか。今後も採用していくにあたり、SEや建築などの専門性や経験を有する方を採用できれば学校としても力強いのではないかと質問した。

[上月学長]

A. SE等専門的な高い知識を有する方の応募を期待したが、今回はそういう方はいなかった。

[熊谷委員]

A. 学長から説明があったとおり、専門的な高い知識を有する方の採用を望むところ

ではあったが実際には難しい状である。現状、少ない人数の事務職員で業務全体をカバーしていかなければならないため、実務の事務処理能力や協調性などを重視した。

また、配置については、社会人枠はこれまでの社会経験なども勘案し、県とも協議しながら検討し、大卒枠は新卒のポジションで任用していく考えである。

[武井委員]

Q. 事務職員がプロパー化され、今後、県からの派遣が無くなっていくのか、また、今回採用される事務職員がどこまで昇任していくのか伺いたい。

[上月学長]

A. 県からも優秀な人材を派遣いただきたいという考えもあるが、プロパー職員が増えれば、県からの派遣や非常勤職員も減っていくものと捉えている。

事務職員は残業が多いが業務に対するテクニックが不足している面もあると捉えており、今回、社会人枠で採用予定の方は意欲もあり民間経験によりマネジメント能力も高いため、効率的な働き方など民間のノウハウなども導入いただき事務の働き方改革やスキルアップに繋がっていけばいいと期待している。

また、今後の働き方にもよるが、将来、一定の職位に昇任させていくことも念頭に置いている。

- ・ 以上、上月議長より審議が図られ、原案のとおり承認された。

5 報告事項

(1) 山形県公立大学法人評価委員会による令和5年度業務実績評価結果について

- ・ 工藤総務企画主査から、資料3により、公立大学法人の業務実績を評価する「山形県公立大学法人評価委員会」にて、令和5年度業務実績について、本学の自己評価のとおり認められたこと等が報告された。

(2) 令和7年度山形県立保健医療大学選抜試験実施状況について

- ・ 漆山教務学生課長から、資料4により、令和7年度山形県立保健医療大学選抜試験実施状況について、大学院保健医療学研究科（博士前期課程）第1回選抜試験の実施状況、保健医療学部編入学試験の実施状況、今後の選抜試験日程について報告がなされた。

6 その他

[武井委員]

Q. 前回の審議会で、大学の紀要をジャーナル化すること、地域定着枠に関することなどについて説明があった。進捗状況はいかがか。

[上月学長]

A. ジャーナルについては担当する学内委員会で現在準備を進めている。紀要については廃止意見もあったが、一般投稿はせずインバイテッドレビューのような形

で残す方向で検討している。

地域定着率の向上対策に関しては、県に相談しているところ。

7 閉 会

次回は令和7年1月20日（月）13時00分から開催予定。

※ 配布資料

資料1 第2回 経営審議会 議事録

資料2 令和6年度補正予算（第1号）について

画面共有 事務職員の採用について

資料3 山形県公立大学法人評価委員会による令和5年度業務実績評価結果について

資料4 令和7年度山形県立保健医療大学選抜試験実施状況について

議事録署名人

議 長
